

保護者の皆様

廿日市市立平良小学校
校長 二野宮 大英

【令和7年度 学力テストの結果について】

本年度4月17日（木）に「全国学力・学習状況調査（6年生）」が行われました。その結果と分析、及び今後の取組についてお知らせします。学年に応じた取組を授業の中で行い、学力向上に努めて参ります。また、家庭学習は、子供たちの学力定着に欠かせません。ご家庭でも引き続きご協力の程、お願いします。

国語

全国学力・学習状況調査 本年度正答率	
	問題
本校	71.0%
全国	66.8%
県	69.0%

重点課題

- 目的に応じて、文章や図表などを結び付けるなどして、必要な情報を見つけることが難しい。
(読むこと)
- 目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を集め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討することが難しい。
(話すこと・聞くこと)

重点課題に対応した改善指導内容及び方法

- ◎ 複数の情報を分類したり、関係付けたりしながら、論理的に文章にまとめたり、条件に合った文を書いたり、読み取ったりする学習に取り組む。
- ◎ 様々な文章の読解において、「原因と結果」、「事実と感想」などの情報と情報との関係を押さえる学習に取り組む。

算数

全国学力・学習状況調査 本年度正答率	
	問題
本校	60.0%
全国	58.0%
県	59.0%

重点課題

- グラフから必要な数値を読み取り、条件に合わせた理由を言葉や数を用いて記述することが難しい。
(データの活用)
- 分数の加法について、加数と被加数が共通する単位分数の幾つ分かを数や言葉で記述するのが難しい。
(数と計算)

重点課題に対応した改善指導内容及び方法

- ◎ 資料を読み取ったり（社会科）、文章を読んだりする（国語科）など、他教科等でつける力との関連を図り、教科横断的な学習に取り組む。
- ◎ 記述式の問題に取り組み、もとにする数を意識し、具体物や図を使って共通の大きさを実感できる学習に取り組む。

理科

全国学力・学習状況調査 本年度正答率	
	問題
本校	62.0%
全国	57.1%
県	59.0%

重点課題

- 身の回りの金属について、電気を通すもの、磁石に引き付けられるものがあることの知識が身に付いていない。（エネルギー・粒子を柱とする領域）
- 植物の発芽条件について、差異点や共通点を基に、新たな問題を見だし、表現することが難しい。（生命を柱とする領域）

重点課題に対応した改善指導内容及び方法

- ◎ 顕微鏡の操作や金属の性質など、定着が難しいので、実体験と知識を結び付けたり、比較して整理したりしながら、なぜそうなるのか、他とどう違うのかなどを意識して学習に取り組む。

児童質問紙

重点課題

- 国語科では、「分かる」と回答した児童が 92.5%、「役に立つ」と回答した児童が 91.5%と、肯定的な回答が多い一方で、「得意」と回答した児童の割合が 71.3%、「好き」と回答した児童の割合が 61.7%とやや低い。学習意欲の面で課題が見られる。
- 算数科では、多くの児童が「役に立つ」(92.6%)、「活用できる」(87.2%)と肯定的にとらえている。しかし、「得意」(52.1%)や「好き」(49%)と答えた児童は半数程度であり、学びを楽しさや自信へと結びつけていく工夫が求められる。また、「自分の考えを説明する」(53.2%)の割合が低い。
- 「先生は、あなたのよいところを認めてくれている」と感じている児童の割合が 97.9%と高いにも関わらず、「困りごとや不安があるときに、先生や学校にいる大人にいつでも相談することができる」と回答した児童は 65.9%と低い。教師への信頼感是非常に高いが、困りごとを相談できる割合には開きがある。
- 家庭学習状況では、「学校での授業以外での学習時間（平日）」が 1 時間より少ない児童の割合が 54.3%(全国 46%)、「学校での授業以外での学習時間(土日)」が 1 時間より少ない児童の割合が 69.2%(全国 52.7%)と、家庭学習時間が全国平均よりも短い。

重点課題に対応した改善指導内容及び方法

- ◎ 国語科では、読んだことを様々な形で表現したり、自分の思いを友達と交流したりすることで、楽しさや自信を感じられるよう工夫する。
- ◎ 算数科では、計算力を定着させるとともに、自分の考えを友達に伝える活動を増やしたり、実生活に即した問題を扱ったりして、できた喜びや「分かった!」という気持ちを味合わせ、算数の楽しさを感じられるようにしていく。
- ◎ 児童との関係づくりでは、日ごろから信頼を安心につなげる仕組みづくりを行っていく必要がある。日々の声掛けを大切にしたり、相談ルートを明らかにしたりして、児童が安心して相談できる環境を整える。
- ◎ 家庭学習については、学校では習慣化の支援を行い、家庭では学習環境を整え、声かけを行う。それらにより、児童の小さな成功体験を積み上げていき、意欲的に学習できるように連携していきたい。